

平成29年（2017年）11月1日発行

西武信用金庫と包括的連携・協力

中小企業との緊密な関係構築をめざす

7月27日、本学神田キャンパスにおいて、西武信用金庫の落合寛司理事長、本学の成田健一学長による「包括的連携・協力に関する協定書」の調印式が執り行われた。

落合理事長には以前より、教員の個人的な関係のもとで、専門職大学院の授業におけるゲストスピーカーや専門職大学院開学10周年記念シンポジウムのパネラーなどを依頼してきた経緯がある。こうして培われてきた繋がりを、より多面的で効果的な連携へと昇華させることを目的として、今回の包括的連携・協力が行われた。

多くの中堅・中小企業を顧客に持つ西武信用金庫は、産学連携の発展において、今回の連携・協力が果たす役割は大きい。さらに、産学連携の成果をビジネスまで結実させるために、従来の産学官に「金（金融）」をプラスした「産学官金」として同金庫と連携を深めることにより、開発投資や設備投資に関する資金調達など中堅・中小企業が抱える課題解決も期待される。



（左より）成田学長、落合理事長（西武信金）、柳澤理事長

また、同金庫の顧客となっている中堅・中小企業は、本学学生の就職先の候補にも成り得る。本学の存在が少しでも多くの中堅・中小企業に認知されるよう、同金庫と本学との多面的な連携活動を展開することが求められている。

本学は今回の包括的連携・協力の枠組みを積極的に活用することにより、同金庫との「産学官金」連携や、多くの中堅・中小企業との連携実現を模索していく。

川口信用金庫寄附講座贈呈式

第二線の専門家が講師を務める実践的講座「創業の基礎」

9月8日、本学14号館 金庫による寄附講座「創業の基礎」の贈呈式が執



日下理事長（左）より成田学長へ目録が贈られた

り行われた。同金庫の日下義章理事長が目録を読み上げ、成田健一学長へと贈呈された。

7年目となる本寄附講座は学外にも開かれた講座となっており、周辺地域の社会人の参加も想定されている。

講座開設にあたり、講座のコーディネートを担う同金庫地域産業支援課の岸則行氏は「寄附講座は今年度で7年目を迎える。今回から講義内容を一

一新し、創業への想いを如何にして具体化していくかを中心に、現役の中小企業診断士や日本政策金融公庫など創業支援に従事している専門家を講師に加え、実践的で分かりやすい内容となっている。

創業を目指す方だけではなく、社内プロジェクトに携わる方などにも役立つ内容となっており、積極的に受講していただきたい」と期待を込めた。

ビジネスの最前線で活躍する専門家講師から「活きたノウハウ」を学ぶことのできる貴重な機会とあって、創業の志を持つ多くの学生が本講座を受講している。

第3回研究オープンフォーラム実施報告

人に寄り添うロボットの研究最前線

平成30年度の先進工学部ロボティクス学科のスタートを記念して7月21日、福祉ロボットの研究に関するフォーラムが本学において開催された。

フォーラムでは、現在の福祉ロボット研究分野の第一人者である早稲田大学の藤江正克名誉教授、最先端の研究を展開している山梨大学の寺田英嗣教授、東京電機大学の西川謙吾教授に加えて、本学創造システム工学科の中里裕一教授、秋元俊成准教授から各々の研究内容が紹介された。

ロボット分野に関心がある教職員、学生、高校生など約140名が聴講し、長時間にわたり活発な意見交換が行われた。講師の先生方は高度な専門的分野をわかりやすく丁寧に解説し、特に学生や高校生にとっては貴重な機会になったものと思われる。締めくくりに総合討論では、ロボット研究を目指す学生に対し「自分が作ったものを『自分です』と言われた時の相手の笑顔を見ると、止められなくなる。しんどいけど、一つずつ丁寧に勉強してもらえばと思う。1科目でも



総合討論では学生と講師が意見交換を行った

秋季学位記授与式・入学式 留学生別科修了式 挙行

式は9月20日、14号館会議室にて執り行われた。

午前9時30分より秋季学位記授与式、留学生別科修了証書授与式が挙行され、学部72名、大学院工学研究科博士前期課程1名、留学生別科10名（早期修了2名含む）が出席した。

Iやロボット技術によって労働力不足は解消されるという楽観論もあるが、簡単な問題ではない。少なくとも皆さん一人ひとりに求められる仕事の質や要求されるスキルは今は全く異なるものになるだろう。勉強は今日で終わりと決めているが、生涯学び続けるという姿勢を持ち続けて

ほしい」とエールを送った。柳澤理事長による祝辞、廣瀬後援会長、土井工友会長からの記念品贈呈と進み、全員で校歌を斉唱し締めくくった。式終了後には、恩師を囲んで記念撮影をするなど最後の思い出づくりをする場面も見られた。

続いて正午より、同会場にて秋季入学式が挙行された。本学での学生生活を新たにスタートさせたのは学部6名、大学院工学研究科博士後期課程2名、留学生別科8名である。



成田学長より修了証書を授与される修了生

成田学長式辞、柳澤理事長祝辞、後援会、工友会からの記念品贈呈と進んだ。

成田学長式辞、柳澤理事長祝辞、後援会、工友会からの記念品贈呈と進んだ。

成田学長式辞、柳澤理事長祝辞、後援会、工友会からの記念品贈呈と進んだ。



成田学長より修了証書を授与される修了生

日本工業大学 平成30年度入試日程

【基幹工学部】機械工学科・電気電子通信工学科・応用化学科 【先進工学部】ロボティクス学科・情報メディア工学科
【建築学部】建築学科（建築コース／生活環境デザインコース）

入試種別	日	程
特別奨学生入試 筆記試験・調査書 および面接による選考	出願期間	1/ 5(金) ^{※1} ～1/19(金) ^{※2}
	試験日	1/29(月)～2/ 1(木) 本学（都合のよい1日を選択）
	試験科目	1/29(月) 本学・東京・郡山・柏・富山 1/30(火) 本学・東京・水戸・宇都宮・千葉・横浜・長野 1/31(水) 本学・東京・仙台・高崎・新潟・静岡 2/ 1(木) 本学・東京
	試験科目	2/20(火) 本学・東京
一般入試	出願期間	1/ 5(金) ^{※1} ～1/19(金) ^{※2}
	試験日	1/29(月) 本学・東京・郡山・柏・富山 1/30(火) 本学・東京・水戸・宇都宮・千葉・横浜・長野 1/31(水) 本学・東京・仙台・高崎・新潟・静岡 2/ 1(木) 本学・東京
	試験科目	2/20(火) 本学・東京
	試験科目	2/20(火) 本学・東京
センター利用入試	出願期間	1/ 5(金) ^{※1} ～1/29(月)
	試験日	1/29(月) 本学・東京・郡山・柏・富山 1/30(火) 本学・東京・水戸・宇都宮・千葉・横浜・長野 1/31(水) 本学・東京・仙台・高崎・新潟・静岡 2/ 1(木) 本学・東京
	試験科目	2/20(火) 本学・東京
	試験科目	2/20(火) 本学・東京
AO入試	出願期間	1/ 5(金) ^{※1} ～1/29(月)
	試験日	1/29(月) 本学・東京・郡山・柏・富山 1/30(火) 本学・東京・水戸・宇都宮・千葉・横浜・長野 1/31(水) 本学・東京・仙台・高崎・新潟・静岡 2/ 1(木) 本学・東京
	試験科目	2/20(火) 本学・東京
	試験科目	2/20(火) 本学・東京

本学で先端技術研究の取り組みを

社会人大学院生 募集（日本工業大学大学院 社会人特別選抜）

◆大学院工学研究科

博士前期課程・博士後期課程

＊環境共生システム学専攻

＊機械システム工学専攻

＊電子情報メディア工学専攻

＊建築デザイン学専攻

■平成30年度 大学院 社会人特別選抜入試日程

二次募集	日程			
	出願期間	面接試験	合格発表	手続締切
二次募集	平成30年2月14日～2月21日	2月28日	3月7日	平成30年3月12日

お問合せ先：教務部教務課 大学院入試係 TEL 0480-33-7507 URL http://www.nit.ac.jp

※1 インターネット出願は、12/20(水)より受付開始！

※2 本学会場のみ、1/20(土)・22(月)も窓口受付。

【皆さんのチャレンジを待っています。専門高校入試(B工業科)、一般推薦入試(公募制)】

<第1期>出願期間：11/ 1(水)～11/ 9(木)、面接日：11/18(土)本学、合格発表日：11/30(木)

<第2期>出願期間：11/28(火)～12/11(月)、面接日：12/16(土)本学、合格発表日：12/21(木)

※各入試の詳細は、それぞれの「募集要項」でご確認ください。

願書のご請求およびお問い合わせ先 入試室 電話：0120-250-267

第31回日本工業大学建築設計競技

全国から192作品の応募。「風景を開く家」

今回は「風景を開く家」をテーマとし、全国から60校、192作品の応募があった。入賞作品は11月30日までLCセンターで展示される。
【審査委員長の講話】

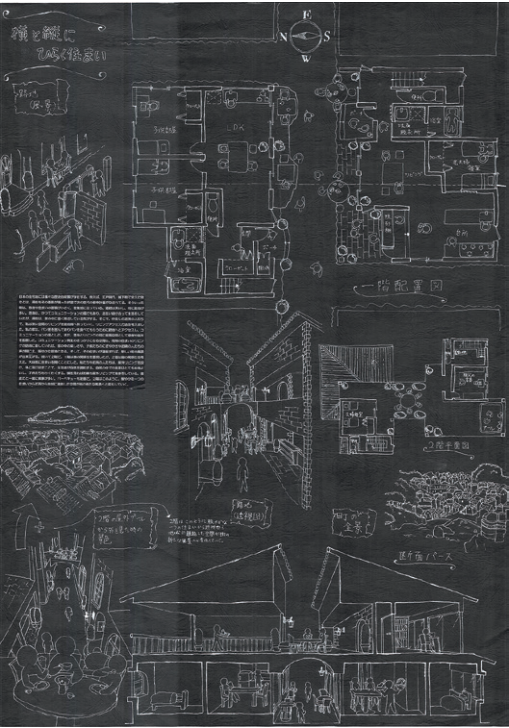
家というのは、個人の持ちものでありながら、道行く人の目に触れ、それらが集まって風景をつくりだし、人々の生活の一部になっていきます。

そして、風景と呼べるものになっていくためには、単に見えている物理的な関係では語りきれない、人と人との関係や、時間的、心理的な関わりも影響するでしょう。

建築物として既存の「風景に開く」だけではなく、どうしたらそのような関係を生み出すことができるのか。みなさんは自分たちの街を風景としてどのようにとらえているのか。「風景を開く」ために、ひとつの家から想像力を広げて考えてほしいと思い、この課題を出題しました。

今回の応募作品からは「風景を開く家」とはどうあるべきか、真摯に考えて取り組んでくれていることが伝わってきて、嬉しい気持ちで審査することができました。参加してくださった高校生のみなさん、ありがとうございました。

宮晶子（建築家）



1等の作品「縦と横にひらく住まい」

入賞者

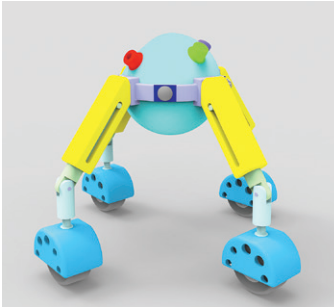
審査結果	氏 名	高校名	学科・学年
一 等	堀 一真	埼玉県立熊谷工業高等学校	建築科3年
二 等	大飼 悠	三重県立四日市工業高等学校	建築科2年
三 等	○山崎 創羽 三村 雄太	兵庫県立神戸工業高等学校	建築科3年
審査員賞 (宮晶子)	宇佐美 皓大	愛知県立半田工業高等学校	建築科3年
審査員賞 (勝木祐仁)	横尾 珠希	国立東京工業大学附属科学技術高等学校	立体造形・デジタルデザイン分野3年
審査員賞 (竹内宏俊)	及川 このみ	北海道苫小牧工業高等学校 (定時制)	建築科4年
佳 作	○杉本 彩華 岡西 雛子	広島市立広島工業高等学校	建築科3年
佳 作	○市園 祐也 森田 翔也 山崎 創羽	兵庫県立神戸工業高等学校	建築科2年 建築科2年 建築科3年
佳 作	姫子松 龍	愛知県立半田工業高等学校	建築科3年
佳 作	植松 駿	静岡県立科学技術高等学校	建築デザイン科2年
佳 作	児玉 優	大分県立大分工業高等学校	建築科2年
佳 作	佐野 愛	大分県立鶴崎工業高等学校	建築科3年

審査結果	氏 名	高校名	学科・学年
佳 作	○谷本 璃空 畠山 育夢	北海道名寄産業高等学校	建築システム科3年
奨励賞	渡邊 良雅	埼玉県立熊谷工業高等学校	建築科2年
奨励賞	矢田 真里奈	三重県立伊勢工業高等学校	建築科2年
奨励賞	伊勢 桃香	埼玉県立春日部工業高等学校	建築科3年
奨励賞	神谷 瞭太	東京都立田無工業高等学校	建築科3年
奨励賞	四條 ひなた	大阪市立工芸高等学校	インテリアデザイン科2年
奨励賞	時吉 遼	愛知県立愛知総合工科高等学校	建設科2年
奨励賞	松尾 和輝	神戸市立科学技術高等学校	都市工学科3年
奨励賞	山本 凜	神戸市立科学技術高等学校	都市工学科2年
奨励賞	清水 広行	北海道苫小牧工業高等学校 (定時制)	建築科2年
奨励賞	深見 元	熊本県立熊本工業高等学校	インテリア科3年
奨励賞	工藤 有希	北海道札幌工業高等学校	建築科3年
奨励賞	岩倉 純平	静岡県立島田工業高等学校	建築科3年
奨励賞	渡邊 風夏	大分県立大分工業高等学校	建築科2年
奨励学校賞	—	福島県立福島工業高等学校	—
奨励学校賞	—	大阪市立工芸高等学校	—

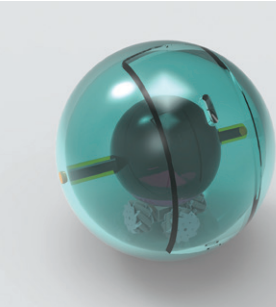
※奨励学校賞：応募多数校

第9回 3D-CAD プロダクトデザインコンテスト

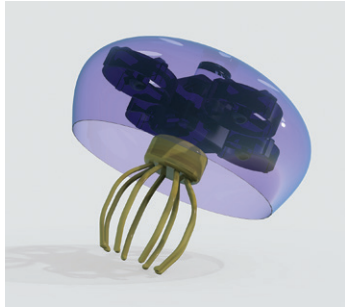
応募総数185作品。入賞作品は造形化し展示



テーマ部門・上田賞作品



テーマ部門・優秀賞作品



自由デザイン部門・優秀賞作品

今回で9回目となる3D-CADプロダクトデザインコンテストには、全国19都道府県から36校が参加し、テーマ部門「役に立つ「メカ」」に91作品(29校)、自由デザイン部門に63作品(23校)、CGアイデア部門に31作品(7校)の出展があった。

入賞(CGアイデア部門除く)作品は全て3Dプリンタによって造形化され、入賞者に贈られた。テーマ部門の優秀賞は複雑な機構を詳細に描いた田

中勇真さん(徳山工業高等専門学校)、また自由デザイン部門の優秀賞はユニークで動きがある形状を描いた田中直輝さん(青森県立十和田工業高等学校)が受賞。また奨励学校賞は群馬県立前橋工業高等学校ならび名古屋市立工芸高等学校の2校が受賞した。

なお、各部門の最優秀賞、ならびにCGアイデア部門の優秀賞は該当無しであった。

審査結果

各賞	チーム名/氏名	高校名
テーマ部門：役に立つメカ		
最優秀賞	該当無し	—
上田義弘賞	橋本 涼	群馬県立伊勢崎工業高等学校
優秀賞	田中 勇真	徳山工業高等専門学校
エコロジー賞	岡谷工業高等学校	長野県岡谷工業高等学校
審査員特別賞	該当無し	—
佳作	岐南工業高校 電子研究会	岐阜県立岐南工業高等学校
佳作	木村 洸介	秋田県立大曲工業高等学校
佳作	黒木 陸	岐阜県立岐南工業高等学校
佳作	マルチメディア部A	岐阜県立岐阜総合学園高等学校
佳作	大迫 藍	愛知県立鶴城丘高等学校
佳作	チームヒドロ	宮城県工業高等学校

各賞	チーム名/氏名	高校名
自由デザイン部門		
最優秀賞	該当無し	—
優秀賞	TNN	青森県立十和田工業高等学校
佳作	堀野 亜美	愛知県立鶴城丘高等学校
佳作	チーム産業	北海道名寄産業高等学校
CGアイデア部門：日常を彩る素敵なアイテム		
最優秀賞	該当無し	—
優秀賞	該当無し	—
佳作	染次 一真	愛知県立鶴城丘高等学校
佳作	角木 恵太	第一学院高等学校新潟キャンパス

各賞	高校名
奨励学校賞	群馬県立前橋工業高等学校 (機械科)
奨励学校賞	名古屋市立工芸高等学校

専門職大学院だより

中小企業診断コースの新設に向けて

技術経営研究科 研究科長・教授 小田 恭市

技術経営研究科では、中小企業技術経営コース、プロジェクトマネジメントコース、起業・第二創業コースを設けて、技術系中堅・中小企業の経営者・後継者・幹部社員などをターゲットに技術経営マネジメントに関する社会人教育を進めてきた。本年度より、第四のコースとして、国家資格である中小企業診断士の育成業務の一部を担う

中小企業診断コースの開設を目指して中小企業庁へ申請手続きを進めている。現在、中小企業診断士は約2万人程度であり、中小企業の経営相談、経営診断を行い、改善・改革すべき点を提案するなどコンサルタント業として活躍している。この中小企業診断士の資格を取得するためには、「中小企業支援法」に基づき中

小企業診断士第一次試験、二次試験に合格し、実務補習等を修了することが課せられている。ちなみに、平成28年度の中小企業診断士第一次試験の受験者は約1万4000人で合格者は約2400人(合格率は17.7%)、第二次試験の受験者は前年度に第一次試験を合格した者も含め約44000人で合格者は842人(合格率は19.2%)であり、極めて狭き門となっている。こうしたスキームの他に、第一次試験合格者には、国から中小企業診断士登録養成機関として認定された機関が実施する養成課程(経営診断Ⅰ・Ⅱの演習科目・実習科目)を修了することによって、第二次試験等が免除される制度がある。既に、法政大学、東洋大学等は中小企業診断士登録養成機

関として認定されている。技術経営研究科では、平成30年度から中小企業診断士養成機関として中小企業診断コースを新設して経営診断Ⅰ・Ⅱの演習科目、カリキュラムの枠外に経営診断Ⅰ・Ⅱの実習科目を設けて対応することを目指している。この中小企業診断コースを設けることによって、技術経営研究科は中小企業を支援する経営コンサルタント(中小企業診断士)の育成に貢献することが出来るようになり、技術経営研究科が目指す「中堅・中小企業の

教育・支援・研究の総合的拠点」としての存在感を強めることとなる。技術経営研究科が我が国の技術系中堅・中小企業を元気にする拠点となっており、日本の「ものづくり基盤」の形成にも貢献できることが期待されている。

専門職大学院
オープンキャンパス

2017
12/9(土)

2018
2/3(土)

説明会・模擬授業・パネル討論会
キャンパスツアー等

TEL. 03-3511-7591 mot@kanda.nit.ac.jp

今年度の就職活動に関わる協定は前年度と同じ3月広報活動開始、6月選考活動開始でスタートするルールであった。しかし、実態は年明け早々に選考が開始され、6月以前に多くの学生が内定を得ていた。そして、夏休み終了時には約8割の学生が内定を獲得し、昨年度同時期と比較して1割以上高い内定率を達成している。「売り手市場」と言われた今年度、企業は昨年に増して学生との早めの

就職支援情報

今年度の就職状況と3年生への就職支援

接触を望んできた。これに対応するため全学年を対象に11月に2日間「業界種セミナー」を実施した。さらに「学内合同企業説明会」を3月に5日間、4月に4日間の計9日間実施した。このほか企業の求めに応じて「学内個別企業説明会」を随時実施することでも40社を学内に招いて学生との接触をサポートした。これらの企画が内定率の向上に大きく影響をしているものと思われる。

しかし、この時期になっても内定に至らず活動を継続している学生もいる。これらの学生に対しては、保護者と本人を交えた三者面談を10月7日に就職支援課にて実施した。今年度は職員との面談だけではなく、ハローワークの学卒ジョブサポーターによる相談と企業紹介会社(就職エージェンツ)によるレクチャーを同時に開催した。卒業研究のまとめが佳境に入ること時期ではあるが、まだまだ多くの

企業が採用を継続しているため、本人の意向に沿うように最後まで支援を行っていく。次年度に就職活動を行う3年生については、インターンシップに参加した学生も多く、企業によっては採用も考慮して実施していることもあり、3年生を対象とした「就職支援ガイダンス」は、エントリーシートの書き方などの実践的な内容を充実させている。今年度、接触時期はさらに早まるものと予想され



学内合同企業説明会

電子情報通信学会

優秀発表賞・優秀研究賞

無線LANのマルチキャスト配信の研究で優秀発表賞受賞

電子情報メディア工学専攻博士前期課程2年の

設置勇君（平栗研究室）が7月27日、電子情報通信学会通信ソサイエティ（通信方式研究会（CS研究会）の学生ポスターセッションにおいて、通信方式研究会学生セッション優秀発表賞を受賞

「指導教員の平栗先生をはじめ共著者の方々に大変感謝している。これまで



「指導教員の平栗先生をはじめ共著者の方々に大変感謝している。これまで

機械工学科 村田研究室

プラスチック成形加工学会 第4回技術進歩賞受賞

6月14日、機械工学科の村田泰彦教授、機械システム工学専攻博士後期課程2年の茂木淳志君（村田研究室）、2012



左から茂木淳志氏（PLAMO）、村田泰彦教授

「金型内コアピン駆動法によるウェルドライン強度および寸法安定性の改善」。

数々の賞を受賞した本研究も最終段階を迎えており、今後は総括となる査読付き学術論文の執筆に全力を尽くしたい」と意欲的に語った。



る。災害地での迅速な情報収集、複雑な建造物の簡易3Dスキャニング、スポーツ中継の多視点リ

無線メッシュネットワークの構築に関する検討」。編隊飛行するドローンが任意の指向性ビーム（電波）を用いて無線ネットワークを構築。空中での高速通信を実現することで、地形や建物に依存しない、柔軟で迅速な通信ネットワークを実現でき

機械工学科 ニノ宮進一教授

品質工学会貢献賞「金賞」受賞



機械工学科のニノ宮進一教授が6月23日、品質工学会より、学会に対して顕著な貢献をしたとして表彰され、金メダルを授与された。

品質工学は技術開発、新製品開発を効率的に行う開発技法で「社会的損失は、射出成形金型のランナ内コアピンを設置し、これを駆動させることによりウェルドラインを抑制したり、成形品の寸法精度を向上させたりすることを実現した。プラスチック成形加工分野の進歩に貢献する独自性と高い将来性を有した

技術として評価された。機械的強度が必要とされる自動車などの構造部材には金属材料が広く用いられてきたが、本成形法が確立されたことにより、プラスチックの軽さと賦形性の良さを活かした、金属に替わる製品の製造が可能となった。

第50期決算・第51期予算

日本工業大学の財務状況

一はじめに

第50期決算、第51期予算が監査法人及び法人監事の監査を受け、法人理事会・評議員会で承認決定されたため、ここに財務諸表をお知らせし、関係各位のご理解と引き続きのご協力・ご支援をお願いする。

おおよび第二食堂の拡大改修工事を行った。4月から利用が開始され、多くの学生に利用されている。なお、学内の桜の名所にちなみ、新食堂棟、学生クラブ棟の所在場所

会計基準が改正され2期目の決算となった。主たる財務諸表について説明する。「資金収支計算書（別表1）」は、当該年度の教育研究等の諸活動に対するすべての収入と支出の内容及び支払資金（現預金）のてん末を明らかにしたもの。「事業活動収支計算書」（別表2）は、①教育活動収支②教育活動外収支③特別

事業活動収支計算書は、大学の経営状態を明らかにするもので、企業会計における損益計算書に相当するものである。①教育活動収支 大学の教育活動に係る収支状況を表す教育活動収支差額は1億5700万円となった。収入の主な内訳は、学生生徒等納付金62億4000万円

（予算対比1億9800万円）、手数料は7100万円、経常費等補助金は4億7500万円であった。人件費は27億8200万円、教育研究経費は24億8200万円、管理経費は6億8200万円となった。

結果、事業活動収入（①②③の収入計）は72億7200万円、事業活動支出（①②③の支出計）は66億2000万円。差額である基本金組入前当年度収支差額は6億5100万円となった。ここから学校法人の諸活動を永続的に維持するための基本金組入額3億6500万円を差し引いた当年度収支差額は2億8600万円の収入超過となり、堅調な大学運営が行われた。尚、基本金の取崩は教育研究用機器備品の除却によるもの（別表5財務関係比率を参照）

平成28年度（2016年度）に本学が行った主な事業等は次の通り。

第1期工事として、学生生活環境の充実のため、新食堂棟・学生クラブ棟の新築、中庭の改修と遊歩道が完成した。

第2期工事として、旧食堂の解体工事が始まり、跡地には7階建の「多目的講義棟」が建設中。完成は来年の12月の予定。

第3期工事として、学生生活環境の充実のため、新食堂棟・学生クラブ棟の新築、中庭の改修と遊歩道が完成した。

第4期工事として、学生生活環境の充実のため、新食堂棟・学生クラブ棟の新築、中庭の改修と遊歩道が完成した。

第5期工事として、学生生活環境の充実のため、新食堂棟・学生クラブ棟の新築、中庭の改修と遊歩道が完成した。

(別表2) 事業活動収支計算書(旧 消費収支計算書) 単位: 千円

収入の部	科目	予算	決算	差異
	科目	予算	決算	差異
収入の部	学生生徒等納付金	6,041,984	6,240,467	△ 198,483
	手数料	73,530	71,333	2,197
	寄付金	46,700	57,793	△ 11,093
	経常費等補助金	455,000	475,219	△ 20,219
	付随事業収入	50,825	81,048	△ 30,223
	雑収入	67,809	79,844	△ 12,035
	教育活動収入計	6,735,848	7,005,704	△ 269,856
	科目	予算	決算	差異
	人件費	2,862,649	2,782,846	79,803
	教育研究経費	2,875,039	2,482,915	392,124
支出の部	管理経費	777,518	682,005	95,513
	徴収不能額等	0	0	0
	教育活動支出計	6,515,206	5,947,766	567,440
	教育活動収支差額	220,642	1,057,938	△ 837,296
収入の部	科目	予算	決算	差異
	受取利息・配当金	102,320	104,541	△ 2,221
	その他の教育活動外収入	58,000	75,500	△ 17,500
	教育活動外収入計	160,320	180,041	△ 19,721
	科目	予算	決算	差異
	借入金等利息	17,200	17,085	115
	その他の教育活動外支出	544,700	548,999	△ 4,299
	教育活動外支出計	561,900	566,084	△ 4,184
	教育活動外収支差額	△ 401,580	△ 386,043	△ 15,537
	経常収支差額	△ 180,938	671,895	△ 852,833
特別収支	科目	予算	決算	差異
	資産売却額	0	0	0
	その他の特別収入	96,000	86,813	9,187
	特別収入計	96,000	86,813	9,187
	科目	予算	決算	差異
	資産処分差額	0	86,001	△ 86,001
	その他の特別支出	0	20,937	△ 20,937
	特別支出計	0	106,938	△ 106,938
	特別収支差額	96,000	△ 20,125	116,125
	(予備費)	100,000	0	100,000
事業活動収入計	基本金組入前当年度収支差額	△ 184,938	651,770	△ 836,708
	基本金組入額合計	△ 897,000	△ 365,000	△ 532,000
	当年度収支差額	△ 1,081,938	286,770	△ 1,368,708
	前年度繰越収支差額	△ 2,406,114	△ 2,406,114	0
	基本金取崩額	0	98,085	△ 98,085
	翌年度繰越収支差額	△ 3,488,052	△ 2,021,259	△ 1,466,793
	(参考)			
	事業活動収入計	6,992,168	7,272,558	△ 280,390
	事業活動支出計	7,177,106	6,620,788	556,318
	経常収入（教育活動収入計+教育活動外収入計）	6,896,168	7,185,745	△ 289,577

(別表3) 貸借対照表 単位: 千円

科目	H28	H27	増減
	H28	H27	増減
資産の部	H28	H27	増減
	H28	H27	増減
	H28	H27	増減
	H28	H27	増減
	H28	H27	増減
	H28	H27	増減
負債の部	H28	H27	増減
	H28	H27	増減
	H28	H27	増減
	H28	H27	増減
	H28	H27	増減
	H28	H27	増減
純資産の部	H28	H27	増減
	H28	H27	増減
	H28	H27	増減
	H28	H27	増減
	H28	H27	増減
	H28	H27	増減

(別表1) 資金収支計算書 単位: 千円

科目	予算	決算	差異
収入の部	予算	決算	差異
	予算	決算	差異
	予算	決算	差異
	予算	決算	差異
	予算	決算	差異
	予算	決算	差異
	予算	決算	差異
	予算	決算	差異
	予算	決算	差異
	予算	決算	差異
支出の部	予算	決算	差異
	予算	決算	差異
	予算	決算	差異
	予算	決算	差異
	予算	決算	差異
	予算	決算	差異
	予算	決算	差異
	予算	決算	差異
	予算	決算	差異
	予算	決算	差異

(別表4) 資金収支予算書 単位: 千円

科目	H28	H27	増減
収入の部	H28	H27	増減
	H28	H27	増減
	H28	H27	増減
	H28	H27	増減
	H28	H27	増減
	H28	H27	増減
	H28	H27	増減
	H28	H27	増減
	H28	H27	増減
	H28	H27	増減
支出の部	H28	H27	増減
	H28	H27	増減
	H28	H27	増減
	H28	H27	増減
	H28	H27	増減
	H28	H27	増減
	H28	H27	増減
	H28	H27	増減
	H28	H27	増減
	H28	H27	増減

(別表5) 事業活動収支計算書の主要項目の分析表

主要項目の分析比率(%)	H28	H27	増減
補助金/事業活動収入	6.5%	6.1%	0.4%
人件費/経常収入	38.7%	39.3%	-0.6%
教育研究経費/経常収入	34.6%	32.7%	1.9%
管理経費/経常収入	9.5%	8.5%	1.0%
借入金等利息/経常収入	0.2%	0.3%	-0.1%
人件費/学生生徒等納付金	39.8%	46.7%	-6.9%

本年、大学は設立50周年を迎えた。これを機に翌年度から3学部6学科2コースに学部学科を再編する。大学の更なる進化・発展のためには、関係各位の皆様のご理解が不可欠であり、引き続きご支援とご協力を賜るようお願い申し上げます。次である。（財務部）

2000万円の支出超過となった。この要因は建設事業に伴う建物の処分差額によるもの。

〇総括

結果、事業活動収入（①②③の収入計）は72億7200万円、事業活動支出（①②③の支出計）は66億2000万円。差額である基本金組入前当年度収支差額は6億5100万円となった。ここから学校法人の諸活動を永続的に維持するための基本金組入額3億6500万円を差し引いた当年度収支差額は2億8600万円の収入超過となり、堅調な大学運営が行われた。尚、基本金の取崩は教育研究用機器備品の除却によるもの（別表5財務関係比率を参照）

三・平成29年度予算について（資金収支予算書）（別表4）

昨年度に引き続き大学設立50周年を意識した予算となった。収入の部では、学生生徒等納付金、補助金収入を中心に行い、施設設備工事では第Ⅱ期工事に対応する特定資産の取崩等を見込んでいた。支出の部では新学部体制を見込んだ予算となった。

本年、大学は設立50周年を迎えた。これを機に翌年度から3学部6学科2コースに学部学科を再編する。大学の更なる進化・発展のためには、関係各位の皆様のご理解が不可欠であり、引き続きご支援とご協力を賜るようお願い申し上げます。次である。（財務部）

小中学生対象のものづくり体験教室を実施

夏休みの自由研究として人気

イベント名称	主な内容	実施日	参加数
中学生科学教室	ワイヤレス通信の簡単工作と実験	7/29 (土)	14名
親子ものづくり教室	電子オルゴール制作など5テーマ	8/5 (土)	97組
関東地区リフレッシュ理科教室	理科実験、星座盤投影機制作	8/19 (土)	51名
子ども大学みやしろ	発電実験、わりばし鉄砲制作など	9・10月の計4回	57名
子ども大学すぎと	発電実験、わりばし鉄砲制作など	9・10月の計4回	57名

小中学生と保護者を対象とした各種体験教室は、理科や工業技術への興味喚起を目的として、毎年夏休み期間中に開催されている。講義、実験、実習、製作などバラエティに富んだプログラムが用意され、各学科および共通教育

系の教員や学生が指導にあたった。小中学生にとっては夏休みの自由研究のテーマとして最適であり、また大学キャンパスで大学教員から指導を受けられる貴重な機会とあって、各イベントとも定員を超える盛況であった。



親子ものづくり教室



関東地区リフレッシュ理科教室



子ども大学みやしろ



子ども大学すぎと

日本工業大学吹奏楽団 第34回定期演奏会

12/17(日)開催 入場無料
春日部市民文化会館大ホール

http://blogs.yahoo.co.jp/nit_wind



負傷者搬送訓練 (8/31)

も1か月間放映予定。
◆学外イベント・新設の応用化学科・ロボティクス学科を紹介するイベントをJR秋葉原駅構内で6月24日・25日、イオンレイクタウン（越谷市）で7月8日・9日に実施。当日は大勢の方に本学のロボットやVR（ヴァーチャル・リアリティ）、スライム製作などを体験いただいた。

防災訓練実施

教職員・学生

8月31日、宮代キャンパスにおいて防災訓練が実施された。学生、教職員、近隣住民等112名が参加。震度6強の地震を想定し、午前9時から身的安全を確認するシェイクアウト訓練、避難訓練、負傷者搬送訓練、初期消火訓練等を行った。また9月19日には一年次生対象の非難訓練を実施。1034名が参加し、防災意識を高めた。

- ◆学生相談室長 川合耕一郎
- ◆人事異動
- 【任用】(9月1日付)
- ◆伊藤大輔准教授(生活環境デザイン学科)
- ◆関根路代講師(共通教育系)
- 【任命】(9月1日)
- ◆IR室長兼担 神雅彦教授
- ◆アドミシジョン・オフィス室長兼担 神雅彦教授
- ◆地域連携統括センター長兼担 菊地信一教授
- ◆IR室長補佐・教務課長補佐兼務 村上隆之
- ◆地域連携統括センター主任・学生支援部就職支援課主任兼務 貞包利文
- ◆アドミシジョン・オフィス・教育研究推進室兼務津留留明
- ◆ものづくり環境学科主任 丹澤祥晃教授
- ◆電気電子工学科主任 青柳稔教授
- ◆建築学科主任 西本真一教授
- ◆共通教育系主任 佐藤杉弥教授
- ◆環境共生システム学専攻幹事 八木田浩史教授
- ◆機械システム工学専攻幹事 ニノ宮進一教授
- ◆学修支援センター長兼担 岩崎利信教授
- ◆学生相談室長 川合耕一郎

- ◆先端材料技術研究センター主任 鈴木学助手
- 【配置換え】(9月1日)
- ◆総合研究センター 橋本秀一講師↓産学連携起業教育センター
- ◆劉受准教授(共通教育系)
- ／出張先Ⅱ台湾(7/6、7/10)／目的ⅡJASSO主催台湾留学フェアにおける学生募集活動
- ◆西本真一教授(建築学科)
- ／出張先Ⅱエジプト(8/3、8/23)／目的Ⅱエジプト古代建築調査
- ◆鈴木宏典教授(ものづくり環境学科)
- ／出張先Ⅱシンガポール(8/31、9/4)／目的Ⅱ米国電気学会・第2回先進交通工学国際会議での研究発表
- ◆神林靖准教授(情報工学科)
- ／出張先Ⅱイギリス(9/6、9/10)／目的ⅡIEEE知的システム国際会議にて研究発表
- ◆那須秀行教授(建築学科)
- ／出張先Ⅱカナダ(9/6、9/18)／目的Ⅱ2×4木造建築工房によるカナダ研修所での建設作業指導
- ◆勝木祐仁准教授(生活環境デザイン学科)
- ／出張先Ⅱカナダ(9/6、9/18)／目的Ⅱ同前
- ◆野口憲治助手(建築学科)

- ／出張先Ⅱカナダ(9/6、9/18)／目的Ⅱ同前
- ◆楠橋康博准教授(創造システム工学科)
- ／出張先Ⅱカナダ(9/6、9/10)／目的Ⅱカナダ研修所及びLehrbridge Collegeにて出前授業ならびに進学指導
- ◆勝木祐仁准教授(生活環境デザイン学科)
- ／出張先Ⅱカナダ(9/8、9/9)／目的Ⅱ同前
- ◆上野貴博教授(電気電子工学科)
- ／出張先Ⅱアメリカ(9/9、9/15)／目的Ⅱ第63回米国電気電子学会電気接点国際会議にて研究発表
- ◆吉田清教授(電気電子工学科)
- ／出張先Ⅱアメリカ(9/9、9/15)／目的Ⅱ第63回IEEEホルム会議において研究発表
- ◆石原次郎教授(情報工学科)
- ／出張先Ⅱメキシコ(9/18、9/29)／目的Ⅱ「Zona Maco Foto 2017」及び「Impulso Mexico Photo Exhibition」での作品発表
- ◆桑原拓也准教授(ものづくり環境学科)
- ／出張先Ⅱアメリカ(9/30、10/7)／目的Ⅱ米国電気電子学会産業応用部門年次大会での研究発表
- ◆雨宮隆教授(ものづくり環境学科)
- ／出張先Ⅱベトナム(10/15、10/19)／目的Ⅱアジア高分子材料加工学会での研究発表
- ◆鈴木宏典教授(ものづくり環境学科)
- ／出張先Ⅱオランダ(10/16、10/21)／目的Ⅱ道路安全・シミュレーション国際会議2017での研究発表
- ◆鈴木宏典教授(ものづくり環境学科)
- ／出張先Ⅱタイ(10/26、10/29)／目的Ⅱタイ高速道路での時間地図作成に関する研究打ち合わせ及び大量輸送機関調査
- ◆大野修一准教授(共通教育系)
- ／出張先Ⅱ韓国(10/26、10/31)／目的Ⅱ韓国、高麗大学の教授との共同研究

- ◆竹村暢康准教授(電気電子工学科)
- ／出張先Ⅱタイ(10/30、11/3)／目的Ⅱ2017年アンテナ・伝搬に関する国際会議における研究発表
- ◆生駒哲一教授(情報工学科)
- ／出張先Ⅱタイ(10/31、11/2)／目的Ⅱ2017年制御、オートメーション、および情報科学に関する国際会議にて研究発表
- ◆佐々木誠教授(建築学科)
- ／出張先Ⅱイギリス(11/2、11/8)／目的Ⅱイギリスにおける住宅団地及び既存市街地の経年変化と維持管理に関する調査
- ◆内田祐一教授(ものづくり環境学科)
- ／出張先Ⅱ韓国(11/3、11/4)／目的Ⅱ第12回製鉄鋼の科学技術に関する日韓2国間ワークショップへの出席および討議
- ◆生駒哲一教授(情報工学科)
- ／出張先Ⅱ中国(11/3、11/5)／目的Ⅱ2017年先進計算知能と知能情報に関する国際ワークショップにて研究発表
- ◆神野健哉教授(電気電子工学科)
- ／出張先Ⅱメキシコ(12/2、12/11)／目的Ⅱ2017年非線形理論とその応用に関する国際会議にて研究発表

日 時 12月10日(日) 16時30分～19時
会 場 進修館大ホール
参加費 大人600円、小学生400円、小学生未満無料
申込・問合せ 11月6日(月)9時～町人権推進室0480・34・1111内線210
※チケット事前受付購入制です。定員に達し次第受付終了となります。
加をお待ちしています。

町人権推進室より
209号

国際交流のついで
2017

外国文化に触れることのできるイベントです。外国人による日本語スピーチや外国と日本の伝統芸能、世界の料理を堪能しながら、多くの国の方々と交流ができます。皆さんの参加をお待ちしています。

編集後記

▼七五三(しちごさん)とは、7歳、5歳、3歳の子どもの成長を祝う日本の年中行事である。神社などで「七五三詣」をして、報告感謝、祈願を行う奉告祭とも呼ばれている。▼この事は周知の事実である。数え年3歳は主に女子、5歳は男子、7歳は女子と発祥と言われる関東地方では考えられているようだ。▼では、七五三が十一月十五日に行われるようになったのはいつからだろうか。各種文献を調べてみると江戸時代の元禄年間だったらしい。そしてこの日に固定されるきっかけを作ったのは五代将軍・徳川綱吉のこと。跡取りである徳松の「髪置き」のお祝いを1681年の十一月十五日に行ったことが始らしい。▼以来、庶民もこの日に七五三の行事を行うようになった。その後、江戸の呉服屋がこの習慣を宣伝し、七五三用の晴れ着を売出したそう。▼皆さんの幼少時を思い出してみたいいかがだろうか。【信】

第52回教育改革シンポジウム 日本語の教育について考える

今回のシンポジウムは、大学で学ぶための基礎力である日本語教育をテーマとして9月7日に開催。約140名の教職員が参加し、熱心な議論が行われた。初めに、外部講師として招いた愛知工業大学教



講師の川端氏

授の川端元子氏より「工業大学での日本語の指導」に関する基調講演が行われた。続いて、本学で日本語リテラシー科目を担当する中尾比早子講師より、本学における「日本語の文章作成教育」に関する現状が紹介された。共通する教育目的はレポートなどの文章の書き方の基本、論理展開や叙述の順序などを習得することにある。授業では学生が与えられたテーマの文章を書き、教員が添

削指導する地道な方法を実践している。明確な目標と評価基準が定められ、多人数の受講生に対して多大な時間と努力をかけ、一つひとつ親身に添削指導する様子が紹介された。

また本学で毎年1年生と4年生に実施している「日本語IRTテスト」について、教育研究推進室の津留留明室員から試験の分析結果が紹介された。本学入学生の日語レベルが私立大学全体平均並みであること、学科による成績の違い、3年間における能力向上度などが説明され、教職員間で問題意識が共有された。

◆CM広告・本学の大山麻里教授がプロデュースした新学部学科紹介CMが完成。東京メトロ全線と東急線の車内ビジョンに7月10日から30日まで放映された。また、福島・新潟・長野・静岡のフジテレビ系列放送局にて7月12日から8月5日まで放映され、12月下旬から

各種メディア・イベントで 新学部学科をPR

2018年4月より本学は3学部6学科2コースへと改編する。本学の魅力を各種メディア・イベントでPRしている。

◆電車内広告・本学教員の研究内容を紹介するポスター「トレインラボ」を東武線全線の電車内に4月から9月まで掲出。本学HPにも動画や解説付きで公開している。

◆電車車体広告・東武アーバンパークライン(野田線)の車体に7月から来年1月までラッピング広告を掲出している。

◆CM広告・本学の大山麻里教授がプロデュースした新学部学科紹介CMが完成。東京メトロ全線と東急線の車内ビジョンに7月10日から30日まで放映された。また、福島・新潟・長野・静岡のフジテレビ系列放送局にて7月12日から8月5日まで放映され、12月下旬から

学部紹介冊子(漫画)を制作

工学部 先進工学部 工学部 工学部

購買の対象商品が20円引きに!!

NITクリエイトは学生向けにスマートフォン用アプリを利用した商品割引クーポン発行サービスを開始した。下記QRコードより「CANPASSアプリ」をダウンロードし、各種情報の登録により利用できる。スチューデントセンターの購買部売店(仮店舗)で対象となる商品が20円割引引きとなる。



町人権推進室より 209号



日 時 12月10日(日) 16時30分～19時
会 場 進修館大ホール
参加費 大人600円、小学生400円、小学生未満無料
申込・問合せ 11月6日(月)9時～町人権推進室0480・34・1111内線210
※チケット事前受付購入制です。定員に達し次第受付終了となります。